SSS
彼女は
海を
見に行く
Shounen Shoujo Sex

海だ！
She goes to See the Sea

3泊4日で海にやって来た。

シロウが言い出して色々と計画したらしい。
タイガが困ったように、でも楽しそうに、あちこち駆け回っていた。

リンも『偶には羽目を外したっていいよね』と参加を表明。
サクラも『ライダーと一緒にならば』と同行に同意。

きっとこういう事は、みんなでやった方が楽しいし。
これが切っ掛けで、もっとみんなと仲良くなれると思う。

泊まる所はタイガの家のものらしい。
プライベートビーチがあって、気兼ねなく遊べるそうだ。
海水浴場も近くにあって、そこの海の家のヤキソバが美味しいらしい。

楽しみだな。

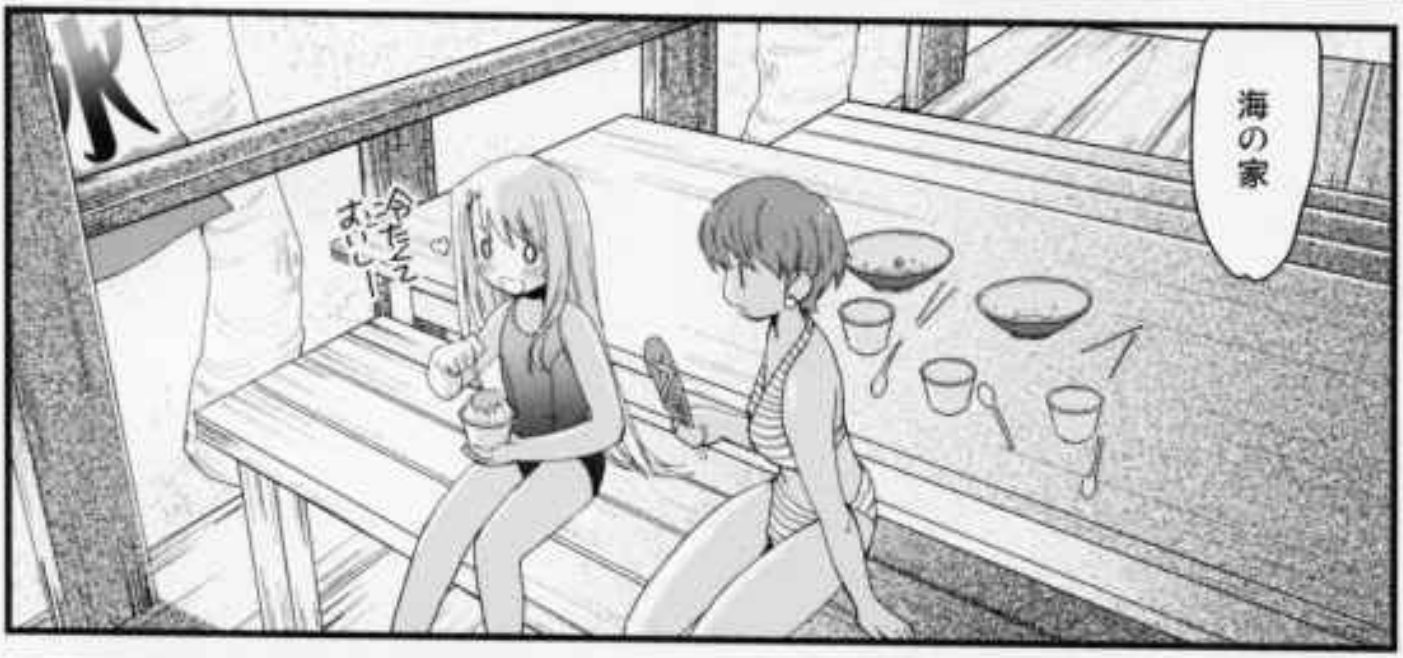
とても楽しくなる、予感。

青い空

浜辺

これが海かぁ…

ビーチバレー
桜
次は殺れ行きますよ
ナニソレ初耳よ


海の家
冷たくておいしい

スイカ割り

楽しかった～！

今日のが一般的な海水浴場よ

明日はプライベートビーチだから

貸しきり状態で遊べるわよ

先生は運転姉さんはイリヤさんのお相手…随分疲れてましたね

ん…

クチュ…

はぁ…
舌を絡める
キスって
ドキドキします…

桜の胸
柔らかくて
触り心地いいよ

もみ

もみ

はぁ

はぁ

あ…
優しく
弄られてる…

二人が
一緒に愛して
くれるから…

ピチャ

ピチャ

ピチャ

ピチャ

ああ…
ライダーの舌が…

桜のここ…
可憐に淫靡に
濡れています

すごく幸せで
気持ち良いです…

桜…こういうのどう？
キュ
キュッ

やぁ…乳首そんなにされたら
はぁ
はぁ
はぁ
身体中熱く敏感になっちゃいます…

それでは桜…クリトリスは？
クリ
ひぁっ！
ビクン

はあああああっ！
ふふ…愛液が沢山出てきました

桜の愛液か…どんな味？

味わいますか？

うん…

こんな味ですよ…

ううっ…二人して何やってるんですか…

ふむ…少ししょっぱいかなでも甘味と酸味も

あはは

は…恥ずかしい事言わないで下さい！

私だって！

うわっ!?

先輩を…味わっちゃいます♡

先輩のお尻可愛いです…
んふ…
ペロ
ペロ
ペロ
桜の舌ってライダーより柔らかいのかもな…
くっ…舌が中に入ってくる…
はっ
はっ
ああ…さく…ら…凄く…感じるよ…
先輩…気持ち良さそうで嬉しい…
でも私も…
チュッ
チュッ
レロ
レロ
レロ
桜の方が貴方への想いが深いですから
行為も情熱的ですね
ライダーの舌使いも凄い…
くっ！
ん…
（貴方の事は結構気に入ってるのですよ…）

ライダー…先輩の精液私にも…

はいどうぞ…

クチュ…

あふ…んん…

…少ないよぉライダー飲んじゃったの？

ごめんなさい桜…でも大丈夫ですよ

…えっ？

あっ!?

先…輩…？

は…入って…!?

あっ
ああっ！

で…
出ちゃう……

ドピュッ

あ…
あああああああっ!?

先輩がいきなり
奥まで入れたから…

お漏らし…

しちゃったじゃ
ないですか…

ゴメンゴメン
お詫びに
思いっ切り
イカせるね

えっ？

ルルルルルルルル

ああっ

ユプ

こんなに
されたら…っ

はっ

はっ

もう…
あっ

いやあああああっ!?

はっ

ビクッ

くっ…凄い締め付けだ…

はっ

はっ

ああああ……

ビクッ

チュポン…

よっ…

士郎…こちらに出してください

バッ

私の中に…零れないよう一番奥で…

よし分かった…

くうっ……

ビュルルルル

ビクッ

ビクッ

ええ…その調子です

ふう…出切ったかな

はぁ

はぁ

はぁ

そうですね…結構な量が入って来ました

それでは…

桜…お待たせしました

どうぞ…

ズボッ。

ああ…クリトリスが刺激されながら

あ…

あっ

精液が吸い出される…とても感じますね

チュッ

ジュッ

チュッ

チュッ

ん…

精液吸ったら愛液もいっぱい出てきたよ…

よいしょっ！
ポニッ
前に屈んでライダー
えっ!?
それっ！
な…何をする
トプププププ
え…
はっ
はっ
はあっ
あああああっ!?
あはっ
さっきのお返しだよ
クニュッ
クチュッ
クチュッ
ジュコッ
ジュコッ
クリ
クリ
最近ライダーはお尻がお気に入りだもんね♡

いっ…やあああああっ!!!

ヤァァァァァァァ

ビクン

ビクン

ビクン

ぷる

ぷる

ぷる

はっ

はっ

はっ

うわー…ライダーがお漏らししてる…

…ん～ ジュース 飲み過ぎちゃった…

ゴン ゴン

いっぱい 出たなぁ…

…ん？ 何だろ…

な… 何これ……？ そん…な…

みんな 裸で…

やだっ…

ん？ どうしたライダー

……いえ

何でも ありません

私はもう少し 桜を攻めようと 思います

そうか… じゃあ俺は 少し休憩する

あれから…
頭の中が真っ白のまま
部屋に戻り
意識を失ったかのように
ベッドに倒れ込み
気がつけば
いつの間にか
明け方だった
眠ったのか
眠ってないのか
分からない
目の前で
行われていた
紛れも無い現実

シロウが。
サクラとライダーと。

セックスをしていた。

わたしだって、その行為は知っている。
性を基本とした魔術も、理論は知ってる。

でも、あれは。
そんなものとは全く違う。

男と女。
セックス。

激しく交わり合い。
心から求め合う。
その行為を目の当たりにして。
わたしは総毛立っていた。
寒気が全身を走った。

みんな、わたしに見せた事のない顔をしてる。
イヤらしくて、でも幸せそうで楽しそうで。

…ふと思い当たる事がある。
タイガ。

わたしがタイガの家でお世話になりだした頃。
タイガが一人でしていたのを見てしまった。
きっと男を知らないのだろうと思わせるような。
秘めやかな行為だった。

わたしだって一人でした事がある。
リズやセラと求め合った事もある。
じゃれあうように。

けれど。
最近見た時のタイガは、以前とは違っていた。
行為の激しさが。
セックスの道具を出し入れさせていたのだ。
ああ、男を知ったんだな…
その時はその程度の認識しかなかった。
相手は同僚なのか誰なのか。
いずれ相手を白状させてやろうと思った程度だ。

けれど、考えてみれば。
タイガの身の周りで、一番可能性があるのは。

「シロウ…なの？」

「ふぁあああ……何よりりや…随分早いじゃない」
この眠そうな声は、タイガかー…と振り返り、目を疑う。

「ねえタイガ」
「何よ」
「…何で、裸なの」

そう、タイガは、水着も、下着も、タオルで隠す事も無く。

素っ裸だった。

「何でって…言ったじゃない、ここはプライベートビーチだって」
いや、それは確かに言ってたけど。
「それなのに、邪魔な物を着る必要なんてないじゃない？」

…そういうものだろうか。
「そういうものかしら？」
「そういうものよ」
そういうものらしかった。

「ふぁあああ……何よ二人とも…随分早いじゃない」
タイガと同じように眠そうな調子でやって来たリンは。

同じように素っ裸だった。

「おはようございます先輩、イリヤスフィール」
一人すっきりとした調子のセイバーは。

でもやっぱり素っ裸だった。

混乱は収まった。
と同時に、思考は止まった。

ふと、リンとセイバーを見遣る。
見慣れた二人の見慣れない裸は、新鮮だった。
タイガとは、普段から一緒にお風呂に入ってるんだけど。

スレンダーで、無駄な肉が全くないセイバー。
見るからに最強で、「最強」という称号とは全く無縁に見える。
筋肉は、その身体に見合った、薄めの張りだった。
可愛いな、と素直に思った。

リンは、多分年相応の身体なのだろう。
適度に膨らんだ胸、女の子らしい凹み。
普段、ぜい肉がどうこう言ってる割に、細めな身体。
…すこし、羨ましい。

タイガだって、誰よりもずっと若くて可愛い。
彼氏の一人や二人いたっておかしくないくらい…

とか思ってたら、リンがいきなりな事を言い出した。
「ねえ、イリヤも脱いじゃいなさいよ」
「な、何言ってるのよリン！」
「そうだそうだー脱げー」
「あんたは子供ですかタイガ…」
「でも折角こういう機会ですから」
「…セイバーまでそういう事言うの？」

3対1…そして。

「おはようイリヤ、みんな」
遅のシロウがやって来た。

その瞬間、自分の中で、全てがストンと繋がって落ちた。

「ねえシロウ」
わたしは言った。
少しパンツを下げて。
スカートをたくし上げながら。

「脱…脱がせて」

シロウは一瞬キョトンとし、そして笑顔で頷いてくれた。

丁寧に、ゆっくりと優しく。
少しずつ脱がされていく。
ドキドキして、胸がいっぱいになる。
手の先にザワザワ感が走る。

シロウと目が合った。
身体の奥が熱くなって…
(あぅ…多分濡れちゃってる…)

「ねえシロウ…昨日、サクラとラブラブ…してるの見たんだ」
思いのって言ってみる。
アチャー、って感じのタメイキとウン。
「で…どう思った？」
シロウが聞いてきた。
「うん…ショックだったよ、かなり」
「そりゃそうか」
そりゃそうだよ。

「それで…タメイキともウンともセクハラともしてるんでしょ？」
彼女に近付く。

「…うん、してる」
だよね。
この状況を見て、分からない方がおかしい。

そして、いちばん聞きたかった事。
「どうして…わたしだけじゃなかったの？」
不意に目頭が熱くなる。
「子供には悪事しないから？　仲間外れにしたかった？」

シロウが苦笑いしながら首を横に振った。
「ちがやとは…初めて一緒に歩く道で誘われたかったんだよ」

……そうだ…
元々、道に歩こうと計画を立てたのはシロウだった。

だとすれば、
明かに、シロウはここでわたしを抱くつもりだったんだ。

「あ、でも、もしちがやが嫌じゃなかったらだけど…」
この期に及んで、何を言うんだろうこの純愛男は。
まあ、だからこそのシロウだけど。

だからこそ、言ってあげる。

「仕方ないな、シロウがそんなに欲しいわたしを欲しいんなら…」
飛びついて抱きしめる。

「わたしの初めて、シロウにあげるね！」

ん…
レロ…
クチュッ
クチュッ
トロロ…
んん…
舌を絡ませるのすごいね…
えっちな感じで好き♡
ふに
ふに
おっぱいはどんな感じ？
ひゃあ？
く…くすぐったい
くい
くい
くい
ふに
ふに
こっちは？
あ…ん…こっちは気持ちいいの…
意外とエッチだな…
そうだよ…女なんだもん
スリ
スリ

へえ…結構濡れてる
こっちはね…自分で触ったりするんだよ
そっか
指も割とスムーズに入るな
タイガの見様見真似で覚えたんだ♥
あはは♡
藤ねえ…後でお仕置きだ
だからシロウ
遠慮なく
わたしの事抱いてね…♡

来て…
シロウが私を大人にしてくれるの
すごく嬉しいから…
ズルッ
ズルッ
プッ
ズズッ
ん…は…入ってきた…
大丈夫？
ちょっと大きかったかな…
うん…意外と平気だよ
ん…でもやっぱり血は出ちゃったか
ズルルルルルルル
そうだね…
はぁ
はぁ
はぁ
それでも…シロウがしてくれたそれが嬉しいんだよ

シロウ…大好きだよ♡

俺もだよイリヤ…

あ…シロウのが大きくなってきた

繋がれたのが嬉しくて…気持ち良くなったからだよ

そっか…わたしも嬉しいな♡

ピクッ

キュ…

グ…グ…グ…

ジュッ
ジュッ
ジュッ
トンッ
トンッ
出すよっ！
ビクッ
あ…
はあああああっ!!
はっ
はっ
はっ
ドクッ
ドクッ
出てる…
出てるよお……
ビクッ
ビクッ
ビクッ

ふう…
昂ってたせいか
沢山出たな…

はあ……
ビュービューって
5回くらい

お腹の奥に
出てるのが
分かったよ…

はっ
はっ
はっ
はあっ

あんっ♡
気持ちぃ…

ライダー
もっとぉ…♡

あっ♡
こっちも…

すごい♡
こんな
ポーズで…♡

えっ？

みんなの声が
何だか…

ええっ!?

ああ…乳首いいよぉ
ちゅ
クチュ
クチュ
セイバーちゃんのここは本当可愛いわね…♡
つ
先生のだって綺麗ですよ♡
ぺろ
ぺろ
凛のも…可憐で惹かれます…
ちゅる
ちゅ
みんな……えっちだね。
まあ…こうなる事は予想してたけどな
し
し
あっ
あっ
はっ
はっ
…ねえシロウわたし達ももっと…♡
了解！
あん

その後みんなに…
寄って集って
代わる代わる
愛され攻められ弄られて

みんなと
何度もキスをして

全身撫でられて
お返しに撫でて

身体中舐められて
沢山舐め返して

くたくたに
なるまで

トロトロと
蕩け合うように
愛し合った

のだった

これからは
わたしも
みんなの
仲間入り…

楽しみだな

ふふ♥

そして翌日も
海中で浜辺で木陰で
寝室で浴室で玄関先で
所構わず愛し合い

最終日には
また海水浴場に行って
泳いで遊んで食べて

夏を満喫したのでした

またみんなで来ようね!!

後記

読んでいただきまして有り難うございました。

今年はとても暑い夏ですね！
原稿中もヘロヘロになりながら作業してました。
その分、漫画も夏っぽくなってれば良いのですが、
いかがだったでしょうか。

何となく去年の夏の本の続きっぽいですが。
完全に続きという訳でもなく。
一部だけ設定を引き継いだだけの、別物と思っていただければ。
まあ、ノリで楽しんでください。

今話題は、何と言っても「hollow」ですね！
今か今かと待ち侘びています。
楽しみだ！

プレイしたら、きっと色々と新情報が入ってて。
色々と本とか作りたくなるだろうなぁ…
エロエロとしたくなるだろうなぁ…
楽しみだ！

Fate も、もう何度もプレイをしてきて。
キャラやシナリオの捉え方がどんどん変わってきてますね。
何年経っても、未だにそう思います。

hollow でまた色々と変わるのかな。
本当に楽しみです。

それでは、また次の本でお会いできれば嬉しいです。

She goes to See the Sea

発行 恋愛漫画家
発行者 鳴瀬ひろふみ
発行日 2005.8.14
印刷所 Power Print
連絡先 hironosu@nud.biglobe.ne.jp
HP http://www.renai-manga.com/

She goes to See the Sea

「シロウ
来年もまた
海に来たいな」

RenAI-Mangaka